

総合開館 30 周年記念

ペドロ・コスタ

インナーヴィジョンズ

TOP 30th Anniversary

Pedro Costa Innervisions

2025 年 8 月 28 日(木)

– 12 月 7 日(日)

展覧会メインイメージ

(映画『ホース・マネー』2014 年より)



東京都写真美術館では、ポルトガルを代表する映画監督ペドロ・コスタ（1959–）による、日本最大規模で、東京では初めてとなる美術館での個展を開催します。コスタは、2018 年にポルトのセラルヴェス美術館で開催された「^{コンパニニア}Companhia」（ポルトガル語で「寄り添う」および「仲間」の意）展や、2022 年から 2023 年にかけてスペイン各地を巡回した「The Song of Pedro Costa」展など、映画だけでなく展覧会という形式においても国際的に高い評価を受けてきました。

本展は、コスタが 10 代の頃に出会い深い影響を受けた、スティーヴィー・ワンダーのアルバム『インナーヴィジョンズ（Innervisions）』（1973）と同名のタイトルを掲げています。音楽を通して社会と個人の関係に迫ろうとしたこのアルバムの精神は、彼の映像制作の方法論とも深く響き合っています。

旧ポルトガル領アフリカのカーボ・ヴェルデ*1 から移住し、リスボンのスラム街フォンタイニャス地区*2 で暮らす女性の過酷な日常を映し出した『ヴァンダの部屋』（2000）は、日本では 2004 年に劇場公開され、新たなドキュメンタリー表現として、大きな反響を呼びました。このようにコスタの映画は、暗闇と光の強いコントラストと、静謐かつ緻密な画面構成のなかに、現実の断片をすくい上げ、社会構造に鋭く切り込み、新たな視座を提示してきました。

今回の展示では、ポルトガルで暮らすアフリカ系移民の歴史を照らし出した『ホース・マネー』（2014）など、コスタ作品において重要な役割を担う、ヴェントゥーラをはじめとする登場人物たちや、彼らが生きる場所に関わる映像作品に加え、東京都写真美術館のコレクションも紹介します。

コスタの映像表現とその背景にある歴史的・社会的文脈に触れることで、「インナーヴィジョンズ」という主題を考察していきます。

*1 カーボ・ヴェルデ共和国は西アフリカ沖にある火山群等からなる島国で、15 世紀にポルトガルによって入植され、奴隷貿易の中継地として栄えたという歴史がある。1975 年に独立。*2 ポルトガル、リスボンにあったスラム街。多くのアフリカ系の住民が集まる移民街だった。コスタは、『骨』（1997）以降、『ヴァンダの部屋』（2000）、『コロッサル・ユース』（2006）でこの地区を舞台に映画制作を行っている。

ペドロ・コスタ

1959 年、ポルトガル・リスボン生まれ。リスボン大学で歴史と文学を学び、映画学校では詩人・映画監督アントニオ・レイスに師事。1989 年の長編デビュー作『血』がヴェネチア国際映画祭で注目を集め、その後『骨』（1997）や『ヴァンダの部屋』（2000）で国際的評価を確立。カンヌ国際映画祭や山形国際ドキュメンタリー映画祭など受賞歴多数。『ホース・マネー』（2014）でロカルノ国際映画祭最優秀監督賞を受賞し、『ヴィタリナ』（2019）で同映画祭金豹賞を受賞。アントン・チェーホフの戯曲『三人姉妹』に着想を得て制作した短編ミュージカル映画『火の娘たち』（2023）は第 76 回カンヌ国際映画祭で特別招待作品として上映され、各国で高い評価を得ている。

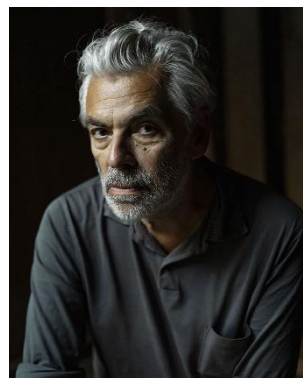


Photo by João Pina

展覧会のみどころ

日本最大規模となる個展

ドキュメンタリーとフィクションの境界を揺るがす独自の映像表現で、現代映画の最前線を切り開いてきたペドロ・コスタ。これまでに発表された数々の作品は、カンヌをはじめとする国際映画祭で高く評価され、日本でもコスタの映画は多くの支持を集めています。近年は、映画だけでなく世界各地で展覧会も開催し、表現の領域を広げており、本展はコスタのこれまでの活動の集大成ともいえる展覧会です。

展覧会で見るペドロ・コスタ

映画制作を主軸に、美術とは距離をおきながらも、自らの映像作品を展覧会の形で発表してきたペドロ・コスタ。コスタは、「映像そのものは同じでも、映画と美術館の展示ではそのつながり方が違う」と語ります。展覧会のために、映像作品を制作するのではなく、映画を美術館の空間に持ち込むことで、映画のなかで実現した問題意識を広げ、新たな体験を生み出す試みをおこなってきました。映画においてはひとつの流れとして編集される映像が、本展では断片として空間に分散され、来場者は映像・写真・音が交錯する展示空間を歩きながら、その断片を自身の手で編み直すように体験します。映画とは異なる鑑賞体験をお楽しみいただけます。

インナーヴィジョンズ

1974 年、ポルトガルの独裁政権崩壊と植民地解放へとつながるカーネーション革命^{*3}のさなか、当時 15 歳のコスタは、ステイーヴィー・ワンダーのアルバム『インナーヴィジョンズ』（1973）に出会い、深い影響を受けました。階級や人種にまつわる喪失と希望を描いたこのアルバムに、激動の時代と自身の内面の変化が重なり、共鳴したといいます。「内面のヴィジョンであり、内面から現れるヴィジョンでもある」というタイトルの持つ二重の意味は、コスタの映像表現にも通底し、本展の核にもなっています。

^{*3} 1974 年 4 月 25 日に、ポルトガルで起こった無血の軍事クーデター革命。独裁政権が崩壊し、民主化が進んだ。市民が兵士の銃口にカーネーションを挿したことからこの名がついた。

写真美術館コレクションのジェイコブ・リース

映画『ホース・マネー』の冒頭場面では、アメリカのフォトジャーナリズムの先駆者、ジェイコブ・リース（1849-1914）が 19 世紀末から 20 世紀初頭にかけてニューヨークの貧困街を撮影した写真群が映し出されます。本展では、コスタの映画世界と連動し、東京都写真美術館が所蔵するジェイコブ・リースの作品を紹介し、コスタの作品世界への理解を深めます。

映画館から展覧会へ——ふたつの上映とトークプログラム

会期中、当館 1 階ホールではふたつの関連上映プログラムを実施します。会期前半には、本展に合わせペドロ・コスタが自らの視点で選び構成した 11 本（予定）の映画を上映する「ペドロ・コスタのカルト・ブランシュ*4」を開催。コスタが「ポルトガルの『東京物語』」と評する『ポルトガルの別れ』（ジョアン・ボテリョ監督）を上映します。会期後半には、コスタの代表作を特別上映する「ペドロ・コスタ特集上映」を開催します。さらにアーティスト・トークやゲストとの対談も開催予定。映画の持つ力とペドロ・コスタの映像世界の奥行きを、新たな角度から体験する貴重な機会となることでしょう。

※プログラムの詳細は 5 ページの関連イベントをご覧ください。

*4 フランス語で白紙委任状を意味し、映画上映プログラムでは、ゲストに自由裁量を与えて、独自の切り口で好きな作品を選び、観客に紹介してもらう形式を指す。

出品予定作品 ※《 》は作品名、〈 〉はシリーズ名、『 』は映画タイトルを指す

1 《少年という男、少女という女》2005 年 2 チャンネル・ビデオ・プロジェクト 東京都写真美術館蔵
『ヴァンダの部屋』と『コロッサル・ユース』撮影時の素材を使ったビデオ・インスタレーション。

2 ジェイコブ・リース〈向こう半分の人々の暮らし〉ほか 1880-1889 年 ゼラチン・シルバー・プリント
東京都写真美術館蔵

映画『ホース・マネー』の冒頭場面では、19 世紀末から 20 世紀初期にかけてニューヨークの貧困地域を撮影したリースによる 12 枚の写真が映し出される。本展では東京都写真美術館所蔵のコレクションから、コスタが選んだリースの写真作品を展示する。

3 新作映像作品 2025 年 シングルチャンネル・ビデオ

映画『ホース・マネー』の音楽シーンから構成されたポートレイトのシリーズ。ジェイコブ・リースの作品群への応答となっている。

4 〈溶岩の人々〉2015 年 和紙にインクジェット・プリント

映画に登場する 5 人の肖像を和紙にプリントした写真作品のシリーズ。

5 《火の娘たち》2019 年 5 チャンネル・ビデオ・プロジェクト

カーボ・ヴェルデに暮らす女性たちの顔をモチーフにしたインスタレーション。その映像は映画『溶岩の家』の引用から構成されている。

6 《火の娘たち（2022）》2022 年 3 チャンネル・ビデオ・プロジェクト

カーボ・ヴェルデ諸島のフォゴ島で 1951 年に火山が噴火した出来事を発想源にして、短編映画『火の娘たち』（2023）を制作したコスタが、その映画作品の公開と同時期にスペインで発表したインスタレーション。3 つに分割された画面にひとりずつ異なる女性が映し出されるミュージカル映画。火山のマグマが迫る中、彼女たちは孤独や苦難、仕事の苦勞、不屈の精神について歌う。

7 《ジ・エンド・オブ・ア・ラヴ・アフェア》2003 年 シングルチャンネル・ビデオ・プロジェクト

寝室の窓際に立つ男性が、窓の外を眺めながら風に揺れるカーテンを眺めるというワンカットで構成されている。ビリー・ホリデイによる同タイトル曲に触発されて完成した作品であり、そこでは恋の終わりが示唆されている。フランスとポルトガルで開催される芸術祭「Festival Temps d'Images」のために制作された。

8 《アルト・クテロ》2012 年 2 チャンネル・ビデオ・プロジェクト

アルト・クテロは、カーボ・ヴェルデのフォゴ島にある土地の名前であり、またリスボンにおけるカーボ・ヴェルデ移民の悲惨な生活を歌った労働歌のタイトルでもある。『ホース・マネー』の後半では、この音楽が挿入されている。本インスタレーションは、病院のような場所でたたずむヴェントゥーラと火山の映像から構成されている。

9 《溶岩の家 スクラップブック》2010 年 スライドショー

カーボ・ヴェルデ諸島を舞台にして撮影された長編第二作『溶岩の家』（1994）のために、コスタは制作の準備段階で得たアイディアやイメージをスクラップブックにまとめている。絵画、写真、手紙、新聞記事、落書き、文学作品の引用、ポートレートなどによって構成されたイメージのシナリオが、映画の実現に重要な役割を担った。

広報用図版



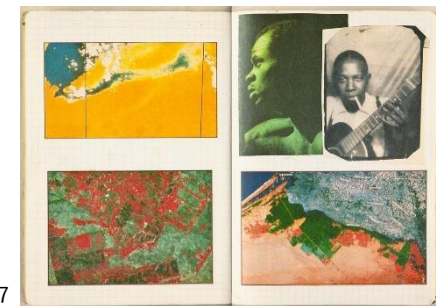
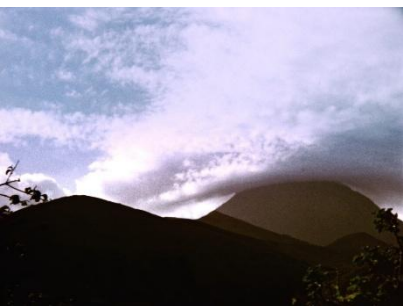
1 ペドロ・コスタ《少年という男、少女という女》2005 年 東京都写真美術館蔵 2 ジェイコブ・リース〈向こう半分の人々の暮らし〉1880-1889 年 東京都写真美術館蔵 3 ペドロ・コスタ《溶岩の人々》2015 年



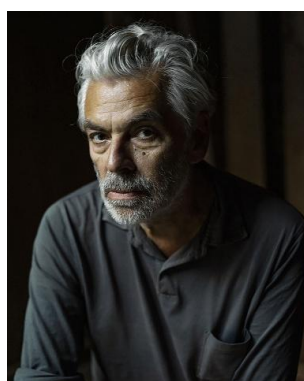
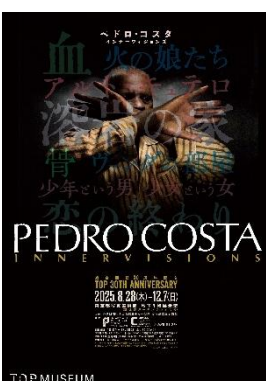
4 ペドロ・コスタ《火の娘たち (2022)》2022 年



5 ペドロ・コスタ《火の娘たち》2019 年 6 ペドロ・コスタ《ジ・エンド・オブ・ア・ラヴ・アフェア》2003 年



7 ペドロ・コスタ《アルト・クテロ》2012 年 8 ペドロ・コスタ《溶岩の家 スクラップブック》2010 年



9 展覧会メインビジュアル
10 展覧会チラシ
11 ペドロ・コスタ ポート
レイト Photo by João Pina

※所蔵の記載がない図版はすべて作家蔵

関連イベント

関連上映プログラム

□ペドロ・コスタのカルト・ブランシュ 8月28日(木) - 9月7日(日)

本展に合わせ、ペドロ・コスタが自らの視点で自由に選び構成した11本(予定)の映画を上映。

上映予定作品 |

- 1 『トラス・オス・モンテス』 監督：アントニオ・レイス、マルガリーダ・コルデイロ [1976年 | ポルトガル | ポルトガル語 | 111分]
 - 2 『ポルトガルの別れ』 監督：ジョアン・ボテリョ [1986年 | ポルトガル | ポルトガル語 | 85分]
 - 3 『田舎司祭の日記』 監督：ロベール・ブレッソン [1950年 | フランス | フランス語 | 102分]
 - 4 『星を持つ男』 監督：ジャック・ターナー [1950年 | アメリカ | 英語 | 89分]
 - 5 『太陽』 監督：アレクサンドル・ソクーロフ [2005年 | ロシア・イタリア・フランス・スイス | 日本語、英語 | 110分]
 - 6 『H story』 監督：諏訪敦彦 [2001年 | 日本 | 日本語 | 111分]
 - 7 『真人間』 監督：フリッツ・ラング [1938年 | アメリカ | 英語 | 94分]
 - 8 『山羊座のもとに』 監督：アルフレッド・ヒッチコック [1949年 | イギリス・アメリカ | 英語 | 117分]
- ほか

※以下の日程で、出品作家による上映アフタートークを開催します。

8月31日(日) 13:00 からの上映終了後 登壇者：ペドロ・コスタ

□ペドロ・コスタ特集上映 11月27日(木) - 12月7日(日)

ペドロ・コスタの代表作を特別上映します。

上映予定作品 |

『血』『溶岩の家』『骨』『ヴァンダの部屋』『コロッサル・ユース』『映画作家ストロブ=ユイレ あなたの微笑みはどこに隠れたの?』『何も変えてはならない』『ホース・マネー』『ヴィタリナ』『火の娘たち』
ほか、全11プログラム

※以下の日程で、出品作家およびゲストによる上映アフタートークを開催します。

12月6日(土) 登壇者：北小路隆志(映画評論家、京都芸術大学教授) *

12月7日(日) 登壇者：ペドロ・コスタ ※オンライン

*本展関連事業・連携協力企画として、「京都芸術大学ペドロ・コスタ トーク・連携協力企画(仮称)」を開催予定(9月1日(月) 16:00 - 会場：京都芸術大学[予定])

関連上映プログラムはいずれも

会場 | 東京都写真美術館 1階ホール 定員 | 190名

料金 | 一般 1800円、学生および高校生以下 1,000円

※本展チケットのご提示で1,000円(本展チケット1枚につき1回の割引)

※『H story』を除き、日本語字幕付き

※上映スケジュールなど詳細は当館ウェブサイトでご覧いただけます。

<https://topmuseum.jp/contents/exhibition/index-5093.html>

出品作家によるアーティスト・トーク

8月28日(木) 18:30-20:30 登壇者：ペドロ・コスタ

会場 | 東京都写真美術館 1 階ホール 定員 | 190 名 参加費 | 無料

当日 10:00 より 1 階総合受付にて整理券を配布します。

出品作家とゲストによる対談

8 月 29 日(金) 18:30-20:30 登壇者: ペドロ・コスタ、長島有里枝 (写真家)

8 月 30 日(土) 15:30-17:30 登壇者: ペドロ・コスタ、諏訪敦彦 (映画監督、東京藝術大学教授)

会場 | 東京都写真美術館 1 階ホール 定員 | 190 名 参加費 | 無料

当日 10:00 より 1 階総合受付にて整理券を配布します。

担当学芸員によるギャラリートーク

8 月 29 日(金)、9 月 26 日(金)、10 月 17 日(金)[手話通訳付]、11 月 28 日(金)[手話通訳付]

各回とも 14:00-

参加費 | 無料、ただし当日有効の本展チケット、展覧会無料対象者の方は各種証明書等の提示が必要

展覧会図録

『総合開館 30 周年記念 ペドロ・コスタ インナーヴィジョンズ』

B5 判並製、約 200 ページ、価格未定、ソリレス書店発行

出品作家インタビューのほか、ニコル・ブルネーズ (パリ第三大学映画・視聴覚研究科教授)、小田香 (映画監督)、田坂博子 (東京都写真美術館学芸員) ほかによる論考を収録

開催概要

展覧会名[和] 総合開館 30 周年記念 ペドロ・コスタ インナーヴィジョンズ

展覧会名[英] TOP 30th Anniversary Pedro Costa Innervisions

会 期 2025 年 8 月 28 日(木) - 12 月 7 日(日)

主 催 東京都、東京都写真美術館 (公益財団法人東京都歴史文化財団)

後 援 ポルトガル大使館、J-WAVE81.3FM

企 画 田坂博子 (東京都写真美術館 学芸員)

企画協力 濱治佳 (シネマトリックス)

会 場 東京都写真美術館 地下 1 階展示室

東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

Tel 03-3280-0099 URL <http://topmuseum.jp>

開館時間 10:00 - 18:00 (木・金は 20:00 まで)

※8 月 28 日 - 9 月 26 日の木・金曜日は 21:00 まで開館 ※入館は閉館の 30 分前まで

休館日 毎週月曜日 (月曜日が祝休日の場合は開館し、翌平日休館)

観覧料 一般 800 (640) 円 / 学生 640 (510) 円 / 高校生・65 歳以上 400 (320) 円

※ () は有料入場者 20 名以上の団体、当館映画鑑賞券提示者、各種カード会員割引料金

※中学生以下及び障害者手帳をお持ちの方とその介護者 (2 名まで) は無料

※第 3 水曜日は 65 歳以上無料

※8 月 28 日 - 9 月 26 日の木・金曜日 17:00-21:00 はサマーナイトミュージアム割引 (学生・高校生無料、一般・65 歳以上は団体料金。学生証・年齢が確認できるものをご提示ください。)

※オンラインで日時指定チケットを購入いただけます。

本展はやむを得ない事情により内容を変更する場合があります。

このリリースのお問い合わせ先

このリリースに掲載されている図版をデータにてご用意しております。掲載をご希望の際は、広報担当までご連絡ください。

* 図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。

* オンライン媒体への図版掲載は作品保護の観点から、長辺 800～1000 ピクセル以下をご利用ください。

* 図版の無断掲載はご遠慮ください。また、トリミング、文字掛け等の加工はできません。

東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

電話 03-3280-0034 / FAX 03-3280-0033 / www.topmuseum.jp

東京都写真美術館 管理課 企画広報係 press-info@topmuseum.jp